

平成30年1月4日(木) その116 なぜ干支は、「犬」ではなく「戌」なの？

新年明けましておめでとうございます。ゆっくりと家族の時間を持たたでしょうか。私も県外の子ども達に年越しそばを送ったり、長男が帰ってきたり、兄弟の家を訪問したりして、ゆったりと過ごしました。

安室奈美恵の「紅白」見ましたか？最高でしたね。最後まで歌いきり安堵しているような表情、そして涙ぐんでいるように見えましたけど……。

年末に私が長年続けていることがあります。それは「日記」ではなく、「年記」(?) を書いていることです。(笑) 年に一回だけ、大晦日にその年の主な出来事を振り返ります。内容は全く個人的なことだけです。例えば今年は「島尻教育研究所の所長になった」、「2人目の孫ができた」、「妻が孫育のため家を空けることが多かった」などです。心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつづけています。(パクリだ!) 1979年から続けているので、39年目です。最近7~8年は、簡単な「遺言状」も作成し添付してあります。(長男にその存在を伝えてある。)

ついでに長年続けている「自慢できること」がもう一つあります。それは車の「無事故・無違反」が36年連続ということです。毎日のように運転しているのに、免許証はずっと「ゴールド」です。エッヘン!

さて普段の生活ではなかなか登場しないのに、正月になるとテレビやラジオ、年賀状などに必ず登場するものがあります。十二支です。今年の干支は「戌」(いぬ)です。昔はその人の干支を覚えていて、干支で年齢を数えていました。だから生活にとっても密着したものでした。「あの人は未年生まれだから、子、牛、寅、……午、未、申、酉、戌で、61+3で、今年64才になるね」などと数えました。13、25、37、49、61、……を基準にするのです。もちろん「満年齢」ではなく「数え年」ですね。

ところで十二支は「子、丑、寅、卯、……申、酉、戌、亥」と書きますね。本当の動物の名前は、「鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、……」ですよ。ね。「なぜ違うの?」と、子ども達から質問されたらきちんと答えられますか?

実は今から3,500年も前、中国には「殷」(いん)という国がありました。その時代にできたのが十二支で、作物の生育状況で月の名前を表していました。子(し)、丑(ちゅう)、寅(いん)、卯(ぼう)、辰(しん)、巳(し)、午(ご)、未(び)、申(しん)、酉(ゆう)、戌(じゅつ)、亥(がい)と読み、「草木が生え始める月」、「草木が地上を覆う月」、……「新しい命が種の中に生まれ始める月」、「芽がほんのちょっとだけ萌え始めた月」などというように意味でした。だから鼠や牛などの動物とは全く関係がなかったのです。

時代が下って、約2,000年前の中国の「春秋時代」に、文字が読めない農民などのために月の呼び方に馴染みのある動物を当てはめたのです。覚えやすく大変便利でした。それから数百年が経つと、月の呼び方から年の呼び方に変化していき、方角も表すようになりました。だから十二支の漢字は、動物とは全く関係がないのです。

さて平成30年の幕開けです。一月は「検証授業」があり、研究員の皆さんのハードな日程が続きます。体調に気を配り、一日一日頑張りましょう。戌年だけに「**ワン**ダブルな一年」にしよう!! (笑・テレビのパクリ)

平成308年1月5日（金）その117 数字の話（7と13と8と3）

今週は2日だけ出勤して明日からまた3連休です（土日と成人の日）。3学期の始業式も9日（火）で、子ども達も、もう少しのんびりできますね。今日は、元数学の教員らしく「数字の話」をします。

「ラッキー7」という言葉がありますが、なぜそう言うのか知っていますか？野球の試合からきているようですよ。

1885年9月30日、アメリカのシカゴ・ホワイトストッキングというチームが優勝をかけて戦っていましたが、7回の攻撃中にジョン・クラクソンという選手が外野フライを打ち上げましたが、強風にあおられ、なんとホームランになりチームは優勝してしまいました。優勝インタビューでクラクソンは、「ラッキーセブンス」という言葉を使って喜びを表現しました。以来、ラッキーセブンという言葉がたびたび使われるようになったそうです。また野球の試合では、打者が三巡する7回には、比較的よく点が入るそうです。それで、「ラッキー7」という言葉が定着したそうです。

逆に不吉な数字としては、「13」があります。欧米では、13日の金曜日は不吉な日とされています。イエス・キリストが貼り付けにされたのが、13日の金曜日だとする説もあるようですが、聖書にも他の文献にもそのようなことは全く書かれていないそうです。たぶん、約数が多く重宝された「12」の次の数で、素数で割りきれない数であることが嫌われた理由なのかな？

現在世界中の多くの国が使っているグレゴリオ暦では、1年の間に必ず1回以上、最大で年3回、13日の金曜日が現れます。今年2018年は4月と7月に13日の金曜日があります。ちなみに2015年は3回ありました。

グレゴリオ暦では、400年経つと月日と曜日が全く同じになります。だから今から400年後の2418年の今日・1月5日は、「金曜日」です。今年のカレンダーをきれいにとっておくと400年後にまた使えますよ（笑）。

日本では古代から8という数字が神聖なものだと信じられてきました。日本のことを「大八洲」（おおやしま）と言うし、「八岐大蛇」（やまたのおろち）、「八百万（やおよろず）の神々」もよく知られていますね。「江戸八百八町」、「八百屋」、「八重咲き」、「八重山」など。「八」という数字は、「たくさん」という意味で使われています。また漢字の「八」は、「末広がり」だと喜ばれました。私は車のナンバーを「7778」にしました。わかる？「777」（スリーセブン）が、末広がりでたくさん来ますように！（笑）

数字の3は、「ちょうどよい数、しっくりくる数」として、ことわざや慣用句に多く使われています。まず「たびたび」という意味で「再三」と言いますし、「仏の顔も三度まで」、「三度目の正直」、「石の上にも三年」、「三人寄れば文殊の知恵」という言葉もあります。

また「短い期間」、「わずか」という意味で使われることもあります。「三日天下」、「三日坊主」、「二束三文」（とても安いこと）、「舌先三寸」（わずかしかない舌で、相手を丸め込む）、「早起きは三文の得」などです。

さらに「第三者」、「三人称」、「三つどもえ」、「三角関係」、「三拍子そろろう」、「日本三景」、「三大〇〇」、「かけつけ三杯」などという言い方もあります。講演会等でも「その原因を、三つ述べます」と言ったりします。その方が覚えやすい「ちょうどいい」数で、「しっくりくる」からなのです。